

2016年5月13日

## 2016年3月期 決算IR説明会 質疑応答概要

株式会社メイテック

1. 日 時 2016年5月10日(火) 16:00~16:40
2. 場 所 丸の内コンファレンススクエア エムプラス 10F

### 3. 質 疑 応 答

質問 原価率の考え方を伺いたい。人材派遣事業を行う会社は一般的に売り上げが増えるとスプレッドを引き上げるが、御社は原価率を引き上げた。これは、エンジニアに対して給与の引き上げを考えているということか？

回答 社員の給与は3年連続で引き上げましたが、業績予想における原価率上昇の主因は、昨年と比較して若干低めの稼働率を見込んだためです。

質問 説明を聞く限り、御社の事業環境で特に懸念すべき事項が生じていると感じないが、それでも、あえて稼働率の見通しを引き下げた理由は？

回答 新規の受注件数も堅調に推移しており、景況が良い状況ですが、お客様の技術開発投資の変化が激しいため、次に対応できる状況を考えてエンジニアを戦略的にローテーションさせる等の用意をしておく必要があります。  
戦略的にローテーションすることで業務の開始・終了といったインターバル期間が生じるため、稼働率を前期より低く見通しました。

質問 中途採用は、MTと比較するとMFを増やしている印象を受ける。これは、MTのレンジはいわば飽和状態なので、今後はMFのようなミドルレンジを増やす考えということか？

回答 MTのエンジニアは平均対価5,000円のレンジで仕事ができるエンジニアになる。  
質と量の両面を担保して採用を続けていくことには変わりはありませんが、この質を担保できるエンジニアの採用は実際問題として難しいです。  
一方、MFは、グループとして質にこだわる姿勢に変わりはありませんが、一定の母集団形成を実現できていますので、引き続き採用に尽力していきます。

質問 成長の軸足をMTからMFに移したということか？

回答 成長の軸はMTとMFの両方です。  
設計開発領域で、MTはハイエンドのマーケットを拡大し、MFはボリュームゾーンのマーケットを拡大していく、という2つをセットで考えています。

質問 営業利益の減益要因として、原価と販管費の増加とあるが、具体的な数値等で減益に対するインパクトを教えてください。

回答 具体的な数値の内訳は回答を控えさせていただきます。

質問 派遣法改正により、派遣労働者への教育訓練が義務化されたことで、他の派遣会社では教育訓練・キャリアアップにかかる支出が多くなると聞いている。しかし、御社の場合は、従前から取り組んでいるため、教育訓練などで新たな支出の持ち出しなどの影響は無いという理解でよいか？

回答 職業としてのエンジニアにとって、教育研修やサポートする仕組みは必要不可欠ですが、当社は従前から取り組んできたため、特に影響はありません。

質問 事業環境の対応について教えてください。技術者に求められるスキルは変化が激しいと思うが、変化に対応していく新しい技術の取り込みに関する具体的な施策を教えてください。

回答 当社のエンジニアは、これまで培ったキャリアをベースにしながらも、新たなキャリアに進出していくことによって新しい技術・知識を吸収し、アウトプット・パフォーマンスを発揮してきました。  
今まで培ったものをベースにしながら、新しい枝葉を作るといったようなことで対応しています。

質問 4つの研修施設の売却によって、技術の伝承に関するマイナスの影響はないのか？

回答 全く影響はありません。

自前の4施設は維持管理費・修繕費の軽減のため、一昨年10月に利用を停止しました。これにより全国に大規模な施設は2つのみとなりましたが、賃貸で各営業拠点に中規模な教育施設を確保していますので、教育研修には何ら弊害はありません。

以上